

# アルミニウム製庇 (RSバイザー RS-FB型) 施工要領

このたびは、ダイケンアルミニウム製庇RSバイザーをご採用いただき、  
ありがとうございます。

アルミニウム製庇RSバイザーは、遮光性、遮熱性、防雨性、意匠性の  
目的で使用されるものです。

確実な施工を行い、製品の安全を確保するため、施工前にこの「施工要領」を  
必ずお読みください。

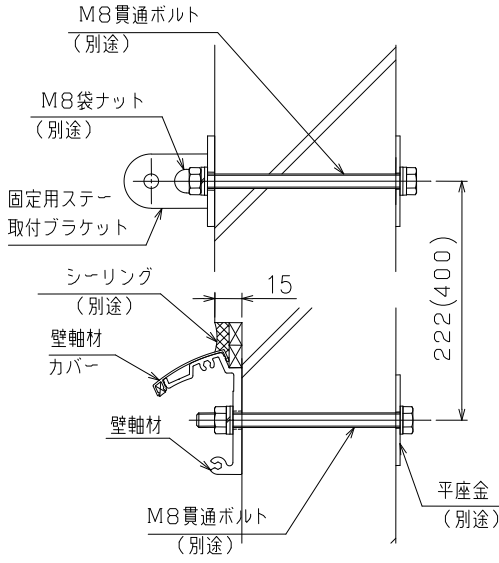
## ⚠ 注 意

転落の恐れがありますので、庇に乗ったりぶらさがったりしないでください。  
庇が破損する恐れがありますので、積雪80cmを超える前に必ず雪降ろしを  
行ってください

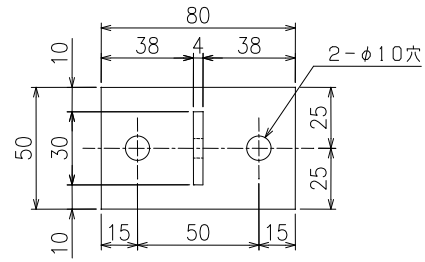
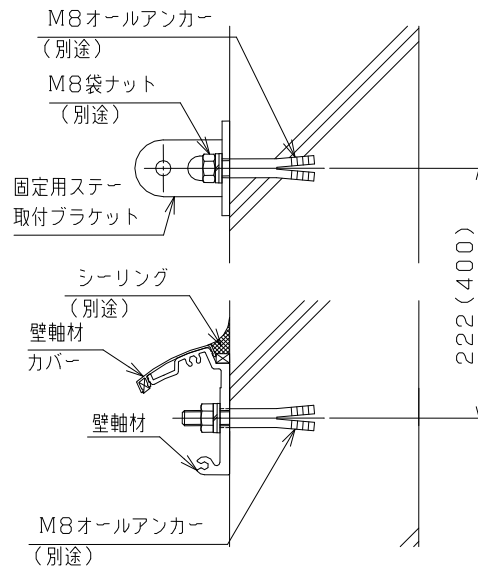


## 壁側納まり図（断面）

### ALC下地に取り付ける場合

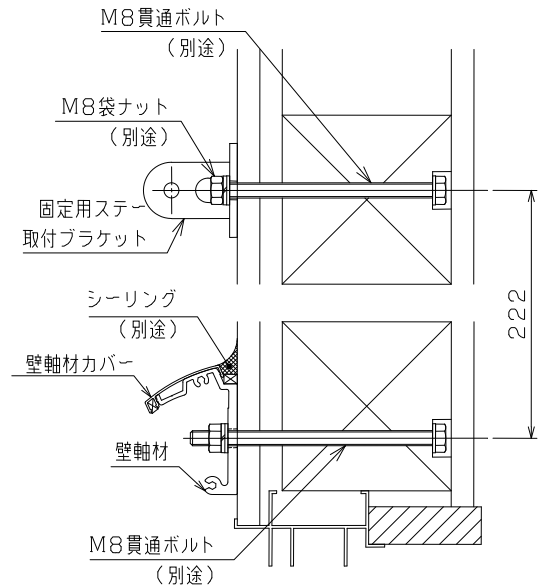
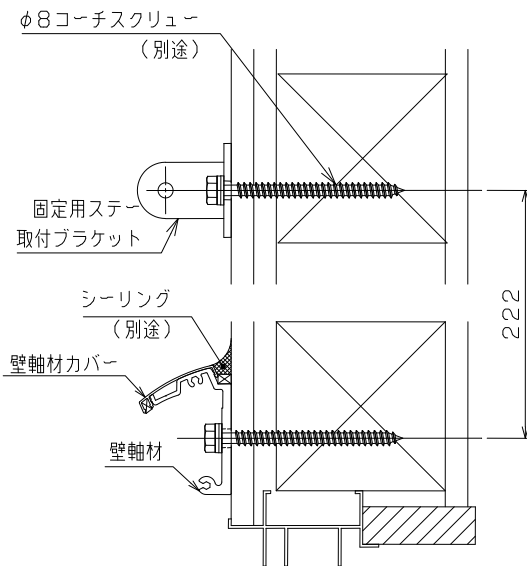


### コンクリート下地に取り付ける場合



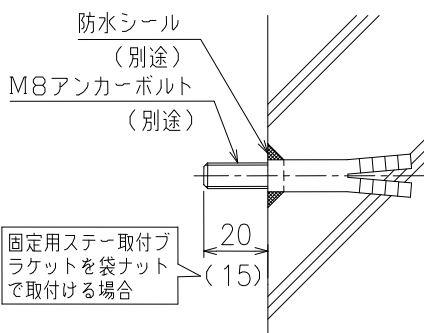
固定用ステー取付  
ブラケット詳細図

### 木造下地に取り付ける場合



※カッコ内寸法は  
出幅D>1000 時の  
寸法です

## アンカー取付要領



アンカーボルトは、下地から 20mm 飛び出すようにしてください。但し、固定用ステー取付ブラケットを袋ナットで取付ける場合は、下地から15mm 飛び出すようにしてください。内部への浸水を防ぐためにアンカーボルトの周りに防水シールを施してください。貫通ボルトを使用する際も同様に防水シールを施し、雨水が内部に浸入しないようにしてください。

## ⚠ 注意

アンカーボルトは有効長さが、仕上モルタルやタイル等の仕上材の厚さを含めず、躯体部分に確実に入るようにしてください。

## アンカー取付位置

アンカーボルトの取付位置は、別紙図面にてご確認ください。

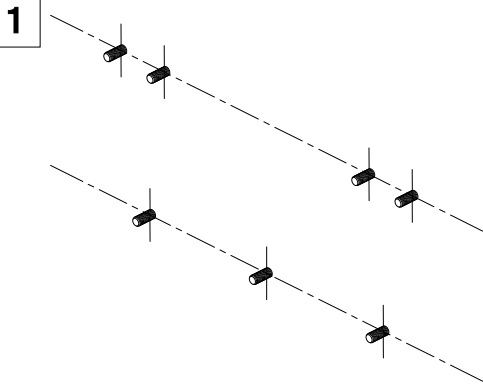
庇が一枚物の場合と二枚以上の複数枚割りの場合では施工手順が異なりますので注意してください。庇が二枚以上の複数枚割りの場合の施工手順は次頁を参照してください。

施工手順

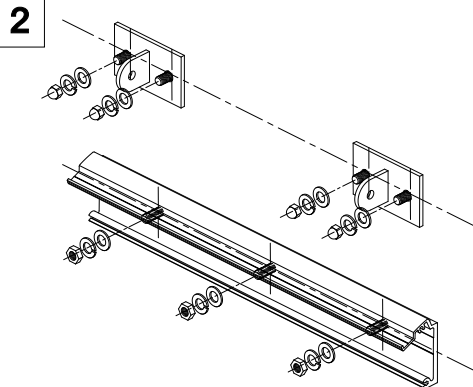
※庇が一枚物の場合

⚠ 注意

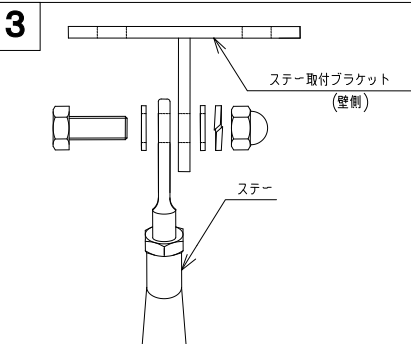
壁軸材及び固定用ステー取付ブラケットは、確実に取付けてください。落下すると事故の原因になります。



1 アンカー図に基づき墨出しを行い、アンカー（M8・別途）を取付けます。（アンカーは壁によって異なります。）



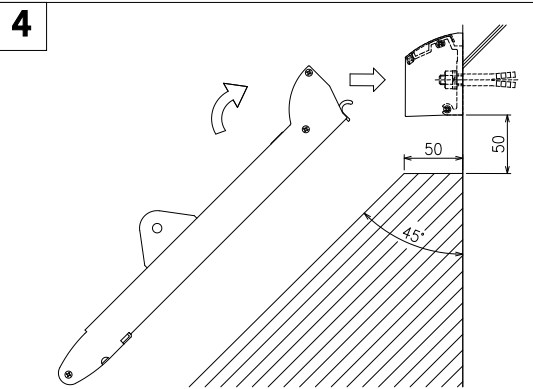
2 壁軸材・ステー取付ブラケットを取付けます。取付面の平面度が出てない場合は、壁軸材の裏側にスペーサー(別途)等を入れて調整してください。通りが出てないと庇本体が、取付られない場合があります。壁軸のレベル出しは、確実に行って下さい。



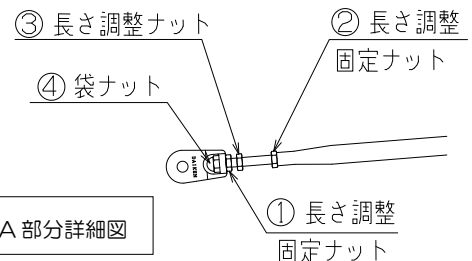
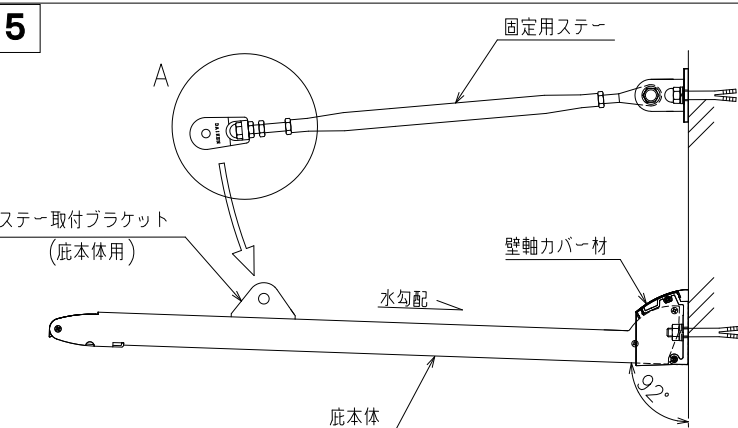
3 あらかじめ庇本体の角度を決めておき、上図のように取付けます。この時、インパクトで根元まで締付けると焼付きの恐れがありますので注意して下さい。

⚠ 注意

庇の角度は、固定用ステーの長さで決まります。ステー取付の際は、取付金具の調整範囲内で角度にあった長さに調整し、付属の六角ボルトで確実に固定してください。落下すると事故の原因になります。ステーの長さは次項を参照してください。



4 図のように、庇本体を壁軸材に取付け、回転させます。その際、斜線部に物があると庇と干渉するため、庇を先に取付けてください。

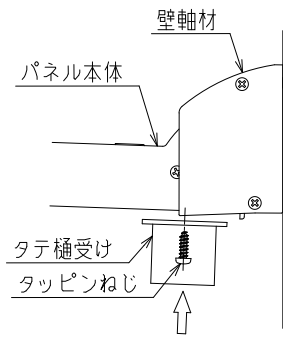


⚠ 注意

固定用ステーは、確実に取付けてください。落下すると事故の原因になります。

ステー取付ブラケットと固定用ステーを付属のボルト・ナットで取付けます。この時、インパクトで締付けると焼付けを起こす恐れがありますので注意して下さい。ステー長さ微調整は、長さ調整固定ナット①、②をゆるめ、長さ調整ナット③を回し微調整できます。調整後はステーの袋ナット④にボルトがしっかり入っていることを確認し、長さ調整固定ナット①、②を確実に締付けて下さい。この時、長さ調整固定ナットがゆるむ原因となりますので、長さ調整固定ナット③が供回りしない様に注意して下さい。

6

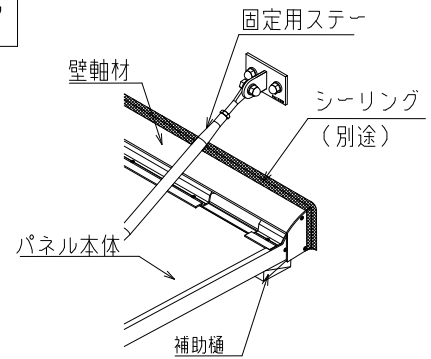


庇の水下側に設けてある水抜き穴の位置に合うように、取付け下穴を開けてシーリング材(別途)をその取付け下穴に注入しパッキン、タテ樋受けを付属のタッピンねじで取付けます。

### ⚠ 注意

タテ樋受け・補助樋は、確実に取付けてください。落下すると事故の原因になります。

7



庇本体取付後、壁軸材上部・端部に防水シール(別途)を施します。

### 固定用ステー取付金具長さ調整範囲

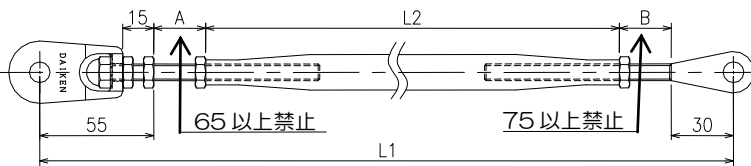


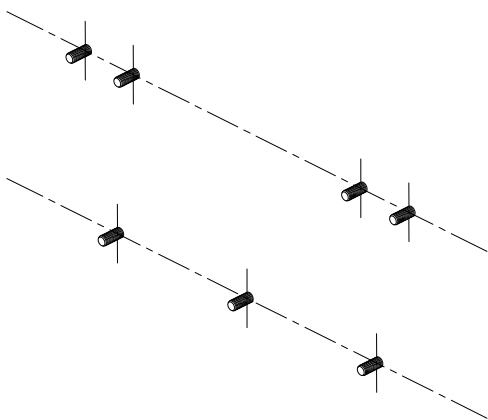
表 1

D	角度	L1	L2	A	B
600~750	92°~95°	410~398	290	17~11	18~12
751~1000	92°~95°	592~579	475	15~9	17~10
1001~1250	92°~95°	879~858	755	19~9	20~9
1251~1500	92°~95°	1083~1062	955	21~11	22~11

ステー長さL1は、庇の出幅Dと角度により決まります。微調整は、表1を参考にA・B寸法内にて調整して下さい。調整後は、長さ調整固定ナットを確実に締めて下さい。

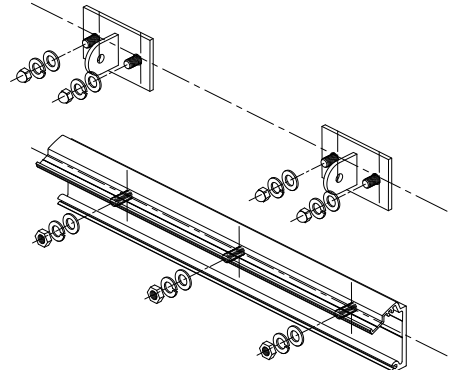
### ※庇が二枚割以上の複数枚割の場合

1



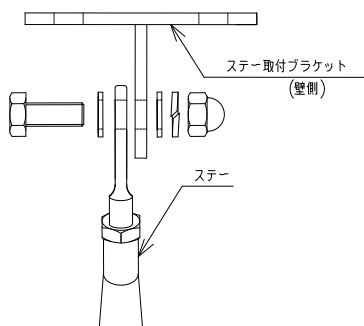
アンカー図に基づき墨出しを行い、アンカー(M8・別途)を取付けます。(アンカーは壁によって異なります。)

2



壁軸材・ステー取付ブラケットを取付けます。取付面の平面度が出てない場合は、壁軸材の裏側にスペーサー(別途)等を入れて調整してください。通りが出てないと庇本体が、取付られない場合があります。壁軸のレベル出しは、確実に行って下さい。

3



あらかじめ庇本体の角度を決めておき、固定用ステーを上図のように取付けます。この時、インパクトで根元まで締付けると焼付けを起こす恐れがありますので注意して下さい。

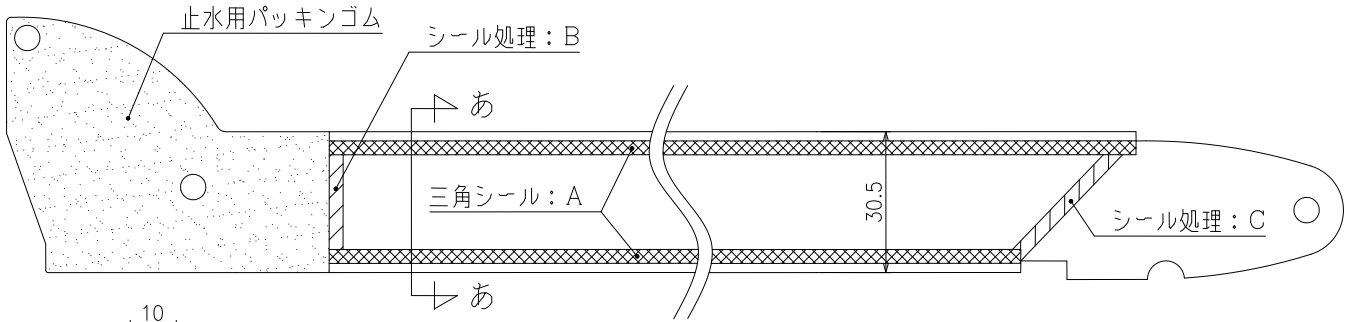
### ⚠ 注意

壁軸材及び固定用ステー取付ブラケットは、確実に取付けてください。落下すると事故の原因になります。

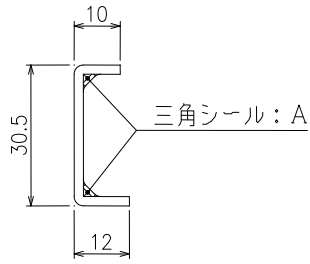
### ⚠ 注意

庇の角度は、固定用ステーの長さで決まります。ステー取付の際は、取付金具の調整範囲内で角度にあった長さに調整し、付属の六角ボルトで確実に固定してください。落下すると事故の原因になります。ステーの長さは上記寸法表を参照してください。

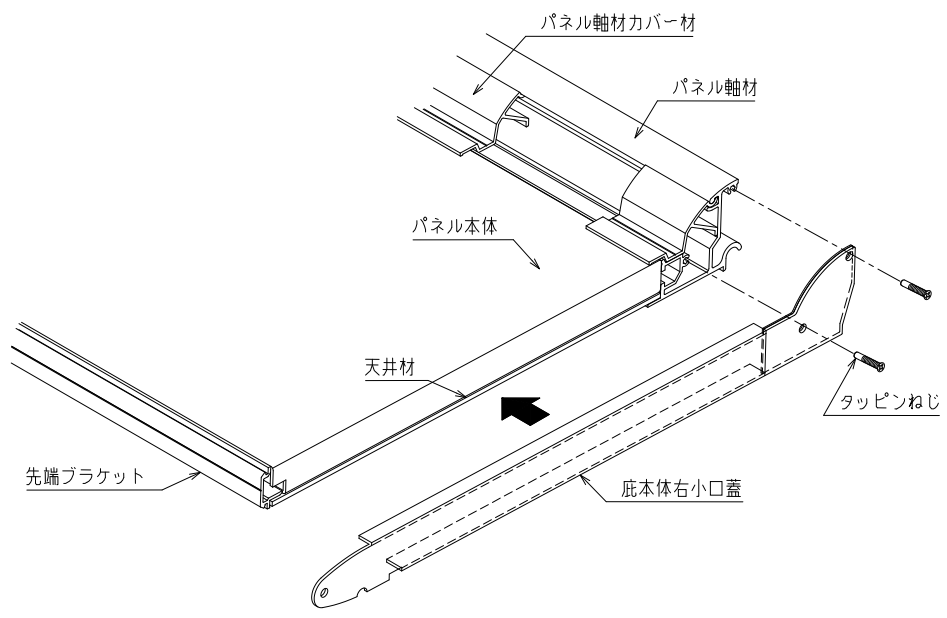
4



底本体小口蓋内部側シーリング処理詳細図

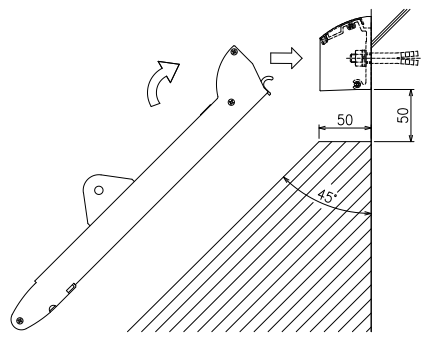


あ-あ断面図



複数枚割の庇のうち、両端部に施工する庇の端部側に底本体小口蓋を取付けます。上図のように底本体小口蓋の内部側の上下に折り返しがある部分には三角シールAを止水用パッキンゴムの端部にシール処理Bを先端側にシール処理Cをそれぞれ施した後、下図のように底本体小口蓋がパネル本体にしっかり密着するように取付け付属のタッピンねじで固定します。 **底本体小口蓋はシーリング材を施した後、速やかに取付けを行ってください。**

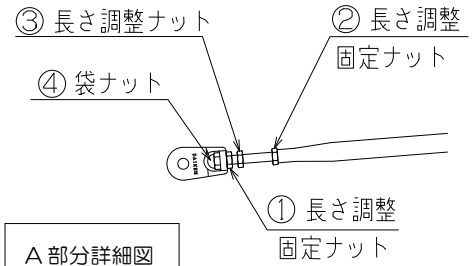
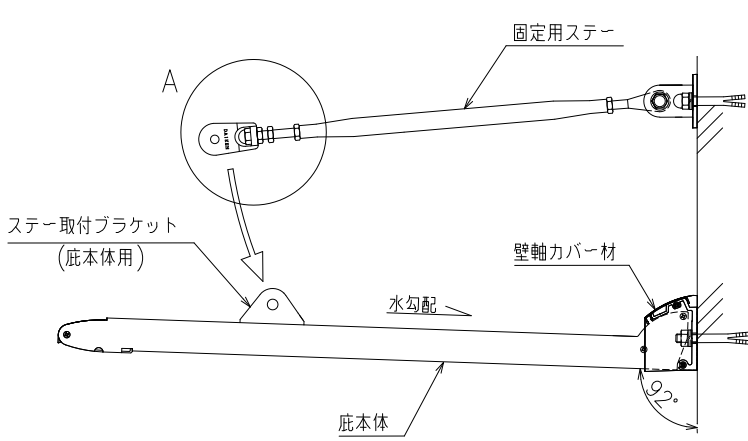
5



図のように底本体を 壁軸材に取付け、回転させます。その際、斜線部に物があると庇と干渉するため、庇を先に取付けてください。

**注意**

固定用ステーは、確実に取付けてください。落下すると事故の原因になります。

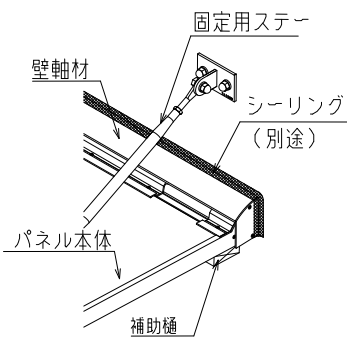


A部分詳細図

**注意**

固定用ステーは、確実に取付けてください。落下すると事故の原因になります。

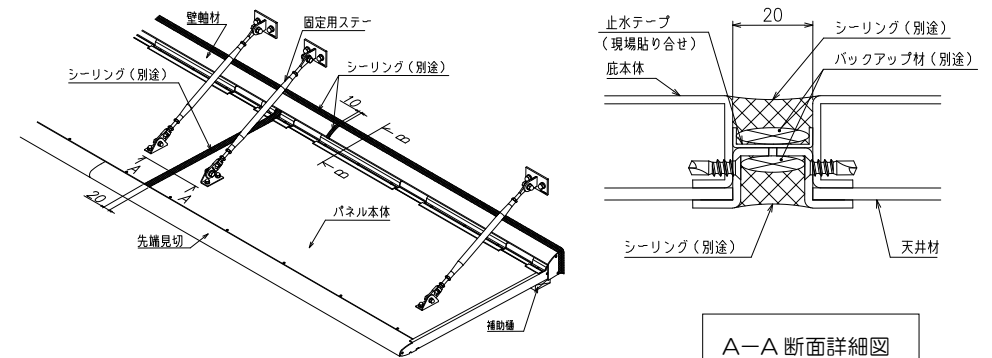
ステー取付ブラケットと固定用ステーを付属のボルト・ナットで取付けます。この時、インパクトで締付けると焼付けを起こす恐れがありますので注意して下さい。ステー長さ微調整は、長さ調整固定ナット①、②をゆるめ、長さ調整ナット③を回し微調整できます。調整後はステーの袋ナット④にボルトがしっかり入っていることを確認し、長さ調整固定ナット①、②を確実に締付けて下さい。この時、長さ調整固定ナットがゆるむ原因となりますので、長さ調整固定ナット③が供回りしない様に注意して下さい。



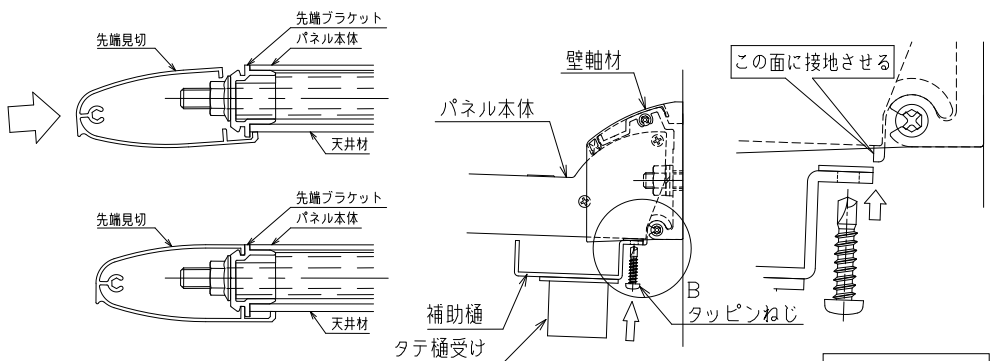
底本体取付後、壁軸材上部・端部に防水シール(別途)を施します。

**注意**

補助樋は、確実に取付けてください。落下すると事故の原因になります。

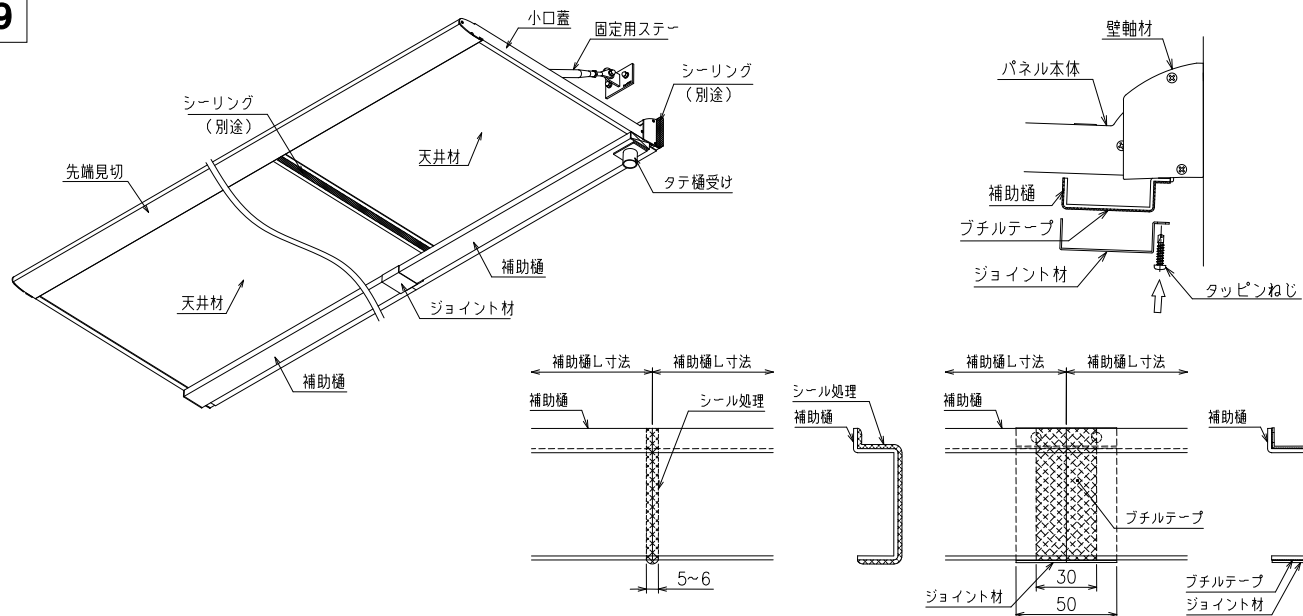


A-A断面詳細図



B部詳細図

底本体、壁軸材(カバー材)が2枚割り以上になる場合は補助樋が付き、基本的にも上図のような納まり(参考)になります。先端見切は底本体を取付けた後、上図のように先端側を少し下げ、傾けた状態で先端ブラケットにパチンと音がするまで押し込んでください。(尚、底本体間のジョイント部は20mmの隙間目地を設け、付属の止水テープを貼り付けてからシーリング処理を施してください)補助樋は上図のようにパネル軸材の突起部に接地させるようにセットし、付属のタッピンねじで取付けます。(ずれると水漏れの原因になります)



補助樋が2本つなぎ以上になる場合は補助樋のつなぎ目にジョイント材がつき、基本的に上図のような納まり（参考）になります。上図のように補助樋のつなぎ目にシール処理（シール幅は5～6mm程度）を施した後、ブチルテープを貼り付け、ジョイント材を付属のタッピンねじで取付けます。（タテ樋受けは1枚物と同様につけます）

**注意:**パッキン材には、クロロプレンゴムを使用しています。シーリング時にシール材により化学反応を起こしシール材が変色する場合がありますのでご注意ください。変色の対処としては、シーリング時にパッキン材のクロロプレンゴムをマスキングしてシーリング材と接触させないようにして下さい。

●改良のため予告なく商品の仕様を一部変更する場合があります。



株式  
会社

**ダイケン**

ホームページアドレス <http://www.daiken.ne.jp>

本社 〒532-0033 大阪市淀川区新高2丁目7番13号

電話(06)6392-5321(代表)

札幌支店	(011)232-3017(代)	千葉営業所	(03)3633-6552(代)
東京支店	(03)3633-6551(代)	神奈川営業所	(045)316-3901(代)
名古屋支店	(0586)77-7661(代)	静岡営業所	(054)237-5375(代)
大阪支店	(06)6392-5556(代)	岡山営業所	(086)297-9100(代)
盛岡営業所	(019)648-2220(代)	広島営業所	(082)294-9181(代)
仙台営業所	(022)235-4380(代)	福岡営業所	(092)935-9731(代)
埼玉営業所	(048)667-9381(代)	東京西出張所	(042)567-1338(代)